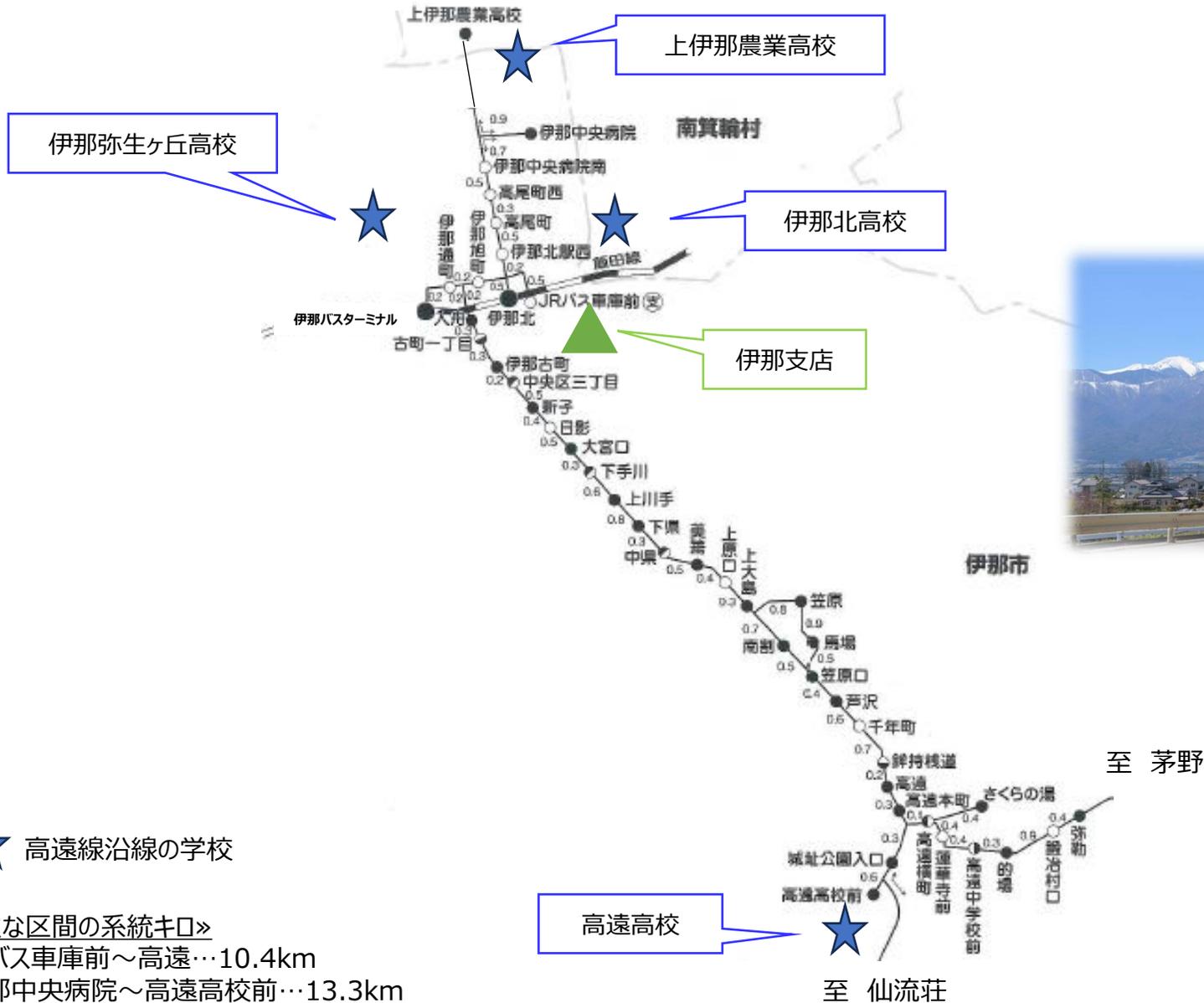


高遠線（たかとおせん）の路線図（主要区間のみ抜粋）



高遠線の輸送人員の推移

高遠線の輸送人員の推移

※ 一般線輸送実績より

■ 定期外 ■ 定期



高遠線の収支状況（2023年度）

◆収入	
運送収入(定期外)	19,112,199
運送収入(定期)	6,257,262
補助金(路線)	0
補助金(その他)	
広告収入	8,616
その他	26,326
一般線収入	25,404,402

◆経費	
(変動費)	
人件費	44,231,320
乗務員	31,689,250
運行管理	3,312,824
車両整備	4,581,737
管理事務	4,647,509
燃料油脂費	4,661,298
車両修繕費	3,254,077
車両償却費	1,995,781
車両諸税・保険料	862,338
洗車・清掃委託費	433,977
備消耗品費	1,147,476
その他	1,171,310
変動費合計	57,757,577

(変動費との)収支 **-32,353,175**

(固定費)	
水光熱費	2,121,037
通信費	622,347
賃借料	365,616
構内営業料	151,232
施設維持費	3,140,558
修繕・清掃・保守・保険	657,692
施設償却費	1,444,052
施設固定資産税	1,038,814
建物以外諸税・保険料	74,633
その他	2,504,488
固定費合計	8,979,912

経費合計(変動+固定) 66,737,489

一般線収支(変動+固定) -41,333,087

※ 上表は施設・設備全体に要する費用のうち、走行距離按分一般線相応額を抽出したもの

高遠線における課題と現在の取組み状況

《現状の課題》

- ・ **路線バスは通学利用が大半で平日の朝晩に利用が集中**
 - 日中時間帯や土休日の利用は限定的で、コロナ禍からの回復傾向は鈍化気味
 - 「片道は回数券、片道は家族の送迎」という利用が増加して定期券利用が減少
- ・ **繁閑による需要の差異の大きさ**
 - 高遠さくらまつり、南アルプス登山シーズンの波動輸送に対応できる車両数を保有
- ・ **経年車両の修繕費増加**
 - コロナ禍での投資抑制から車両更新が先延ばしに

《直近の取組み状況》

- ・ 2023年度内に遠隔点呼を全社展開し、運行管理を小諸支店に移管
 - **伊那支店での運行管理を効率化し、間接経費を削減**
- ・ 老朽車両の一部代替を実施（3両）と車両数の削減（1両）
 - 経年車両の代替による**車両修繕費の抑制**
 - スクールバス車両と高遠線車両の兼用により**車両数を削減**

■ 現在取組中の施策

(1) 運賃改定の実施

- ・ 区間により20～90円の改定による収支改善（認可申請中）

(2) 利便性向上と観光利用促進

- ・ 域外観光客の戸台パークへの安定的な送客
- ・ 将来的な上伊那地区での地域連携ICカード導入への参画

(3) 路線バス運行に関わる公的補助金の活用

- ・ 国庫補助及び県補助受給による収支改善
- **国や県の補助金を活用して生活に必要な路線バスを維持することについて、みなさまのご理解が必要です**

今後のスケジュール案（2025年2月17日現在）

実施予定日	実施内容	効果		備考
		出面	車両数	
現行	-	平日 5出面 土休日 3出面	7両	
2024年度内	【沿線のみなさまへのお願い】 ・地域公共交通活性化協議会にて、高遠線の維持を目的として地域間幹線系統補助金をを活用することに合意をいただく	-	-	地域間幹線バス路線確保維持費補助金交付要綱の第5条に基づき、地域間幹線系統補助金の活用には市町村協議会での合意が必要
2025年5月31日	・運行系統別の確保維持計画を県に提出 ・県有民営バスの貸付け制度の要望調査を提出 （地域間幹線系統に指定されることが条件）	-	-	大型または中型のノンステップバスを導入希望
2025年6月頃	・長野県地域公共交通活性化協議会（バス交通部会）にて、公共交通計画の「広域的・幹線的なバス路線の維持・確保」として高遠線を策定	-	-	市町村協議会での合意に基づき策定され、長野県で補助金を活用して維持する路線として位置づけられることになる
2025年10月	・地域間幹線系統補助金の導入	-	-	地域の生活の足を維持するため、国および県の運行補助を受けて収支改善を図る
2026年3月頃	・県有民営バスの貸付け制度の予算措置 → 2026年5月以降にメーカー発注	-	-	補助金を活用した経年車両の更新による車両修繕費の削減